

シルバ－ 江田島



第 8 号

平成8年7月1日

〈発行〉

(株)江田島町シルバ－
人 材 セ ン タ ー
江田島町ふるさと交流館内
TEL (0823)42-5211

平成八年度通常総会



祝 辞

広島県商工労働部長

高 見 貞四郎

平成八年度通常総会の開催を心から
お祝い申し上げます。

貴センターは平成四年十月設立以
来、着実に事業を発展させてこられ
ました。これは、会員の皆様方をは
じめ、関係者の方々の熱意とご努力
のたまものにはかならないと、心か
ら敬意を表するものです。

さて、二十一世紀初頭には全人口
に占める六十五歳以上の割合は二・
三％、また労働人口も五十五歳以上
が四人に一人と見込まれています。

このような高齢社会に対して、高
齢者が生き甲斐をもって暮らし、ま
た高齢者の豊富な経験、知識を有効
に活用する就業システムとしてのシ
ルバ－人材センターの役割は益々重
要になってきています。こうした状
況の中で、県はシルバ－センターの
事業が一層発展、拡大していくため、
本年は社団法人広島県シルバ－人材
センター連合の設立にむけ努力して
いるところです。貴センターにおか
れても県の施策に対しこれまで以上
のご理解、ご協力をお願いします。

おわりに、会員の方々が就業を通
じて充実した人生を送られるよう念
願するとともに、貴センターの今後
の益々のご発展を祈念してお祝いの
言葉といたします。

五月期通常総会開かれる



ンターの連合体を組織する初年度である。

広島県は、本年一二月に広島県シルバー人材センター連合を組織していく予定である。これにより県内センターの整備拡充と、会員の増強が進められ、各センター運営の安定が図られるものと期待されている。」と、熱意を込めて述べられました。

続いて、来賓の祝辞を次の方からいただきました。

広島県商工労働部長 高見貞四郎氏

江田島町長 平木 重巳氏

江田島町議会議員 浜野 幸敏氏

つづいて議長の選出に移り、秋月区の小松貢氏を選び議事に入りました。

事務局から、出席会員六十六名、委任状提出会員百七名、計百七十三名で総会が有効に成立したとの報告がありました。

議案第一号 平成七年度事業報告

議案第二号 平成七年度収支決算

議案第三号 平成七年度収支決算

について

社団法人広島県シルバー人材センター連

合(仮称)への加入

について

が上程され、事務局の提案説明の後

いずれも満場一致で可決されました。

総会終了後、記念講演会を行いま

した。

理事視察研修

講師は、広島県立生涯学習センター国際文流員のオーストラリアから来日されているリチャード・マシューズさんで、「私の見た日本」国際交流よりもやま話と題して講演をしてい

した。

一月二十三日に尾道SCへ理事七名が視察研修に行きましたので、その内容をお知らせいたします。

尾道SCの設立は昭和五十六年で県下では二番目に古く、全国に先駆けて観光ガイドと独自事業を手がけたところ です。

会員は四七五名、受注件数は四、〇五〇件、契約金額は一億三六五〇万円(民間七一・七%、独自事業二・八%、公共二四・五%)です。

この数字でも分るように民間の仕事が多いということに感心しました。特長は観光ガイドと独自事業です。

観光ガイド

は十五名(男

十一名、女四

名)の編成で

年間二九〇件

対象者四三四

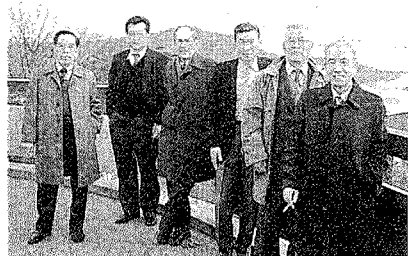
名、受注金額

一一二万円と

なっています。

方法は事前

に申込を受付



ただきました。

オーストラリアと日本の生活習慣や価値観の違いなど流暢な日本語で表情豊かに話され、会員のみなさんは予定時間を過ぎるのも忘れるほどでした。

けてガイドをしているということで、私達の旧海軍兵学校のガイド(班員十一名)が第一術科学校で受付けた者についてガイドする方法とは異なっていました。

問題点は私達と同じように、取消や時間が遅れる場合の対応に困るということです。

次は独自事業ですが、次のような事業をやっておられます。

①「田の面舟」の制作販売

三名 五万円

② 手作り作品制作販売

三名 二四万円

③ 再生自転車販売

三名 一六三万円

④ 土産品販売

十三名 一九六万円

⑤ 刃物研ぎ

八名 二〇万円

①の「田の面舟」というのは尾道の郷土民芸品で木製の小舟です。

②の「手作り作品」は米粒の七福神、コーヒール立、色紙づくり、花立、皿立など二〇種類以上のものがありました。

③の再生自転車は放置された自転車

車で保管期間がすんだものを警察から

払い下げて貰い部品を生かして再

生しました。

生するものです。

④土産品販売は千光寺にある「文学記念館」をガイド班が管理し観光客に場内販売しています。

⑤刃物研ぎは、包丁、ハサミ、ノコの目立等をやっています。

以上のようにいろいろな独自事業をやっておりますが、特色は「作

安全就業研修

今回の研修は広島県最西端大竹市シルバー人材センターに理事長以下六名が参加した。大竹市は人口三、二五五名。理事長の郵便局長として最後の職場の地であった。時間的余裕があったので弥栄ダムを訪れることになり十五分ぐらいで到着した。中国第一のダムだけあって堰堤の長さ三四〇米、

高さ一二〇米もあり、湖畔をめぐる週辺道路も完備しており雄大な景観であった。

いよいよ大竹市シルバー人材センターへ向かう。大竹市シルバー人材センターは都市総合開発計画の近くに



るだけの楽しみ」で終るのでなく販売と結びつけているということです。販売は、市主催などのイベントで行うとともに市内三か所に常設の販売所で販売しています。

江田島町SCも一部の方が現在、竹細工でカブト虫、バッタ、飛行機等の手作り試作品に取りくんでお

あり、設立平成三年、会員三三四名契約金額一億一千万円と有望なセンターである。大竹の理事長ほか説明があり安全を中心に意見交換を行った。特色としては、

(一) 地域別懇談会に力を入れており、年一回実施している。効果としては会員相互のコミュニケーションが図られ、連帯感が醸成され、会員の増強、就業率アップに好影響のことであった。

(二) 大工場が多いために技能職の人が多い、特に安全に力を入れている。パトロールの実施は勿論のこと、グループでの注意を繰返し繰

就業開拓研修

二月六日、風呂井事務局長ほか就業開拓委員八名は吉田町シルバー人材センターを視察研修に訪問することになりました。

研修日の前日、江田島町でも積雪があり、出発が心配されましたが、チェーンを準備しており大丈夫だと

れますが、今後においてワークプラザが完成したらそこを拠点に製作と販売の一体化を図った独自事業を考えたらと思いました。

尾道SCの理事長さんをはじめ役員の皆さんには出迎えからお見送りまでいろいろと親切にしてください。心から感謝しています。

返し行こうことが肝要のことであつた。

(三) 交通量の多い場所での作業には必ず安全標示板を置いている。

江田島町シルバー人材センターでは災害は年々減少の傾向にあるが、昨年は通勤途上災害が二件発生している。今年こそは災害ゼロを目標に頑張っていきたい。人生を八〇年とすると一生の余暇の四〇％は定年後にあるという。会員の就業は各自の責任と自覚によって楽しく働き、余暇を有効に活用して悔いのない人生をすごすことが即ち生きがいである。

(安全委員長 山佐 勇)

のことで出発、途中県内陸部の野山は雪で真白でしたが、道路には雪が無く無事吉田町に着きました。

早速吉田町センター事務局を訪問しました。事務所は民間施設を借用した二階建て、一階が事務室、二階が作業室、広い作業室でした。一三時から研修会を開催し、吉田町側から理事長、事務局長、次長、特別参加として町福祉課長、吉田町史跡ガイド担当が出席されました。

先ず当センター事務局長から挨拶と江田島町センターの概要説明を行い、続いて吉田町事務局次長からの説明、吉田町人口一万一千七百五十六人、現会員二一五人で三百人会員を目指しておられるとのこと。

吉田町は全国に名高い「毛利元就」の遺訓「百万一心の町」と歴史遺産である郡山城跡等に恵まれ、県営工業団地を中心に企業誘致が進められ、又一方福祉施設として、社会福祉法人「清風荘」特別養護老人ホーム「百楽荘」が存在するなど、新旧交差した町です。町の提唱する「健康長寿の町づくり」に沿った高齢者のニーズに合った仕事の確保がシルバー会員に提起され、会員の経験を生かせる就業の場づくりの推進に取組んでおられました。この福祉を中心とする主要事業として家事援助サービス（高齢者介助）（身のまわりの世話）がありました。社協との連携がとれ、拡大目標ともなっております。また注目されたのは、車による送迎運転業務で事故発生に際し補償問題（保険の免責による補償の所在）があったので、新年度から、運転業務は全部中止することでした。

終りに史跡ガイド担当から「毛利元就」について中国地方を統一、日本を代表する戦国武将の活躍した生涯の城下町であった吉田町が「百万一心」に代表されるように町民の心の支えにもなっているとの説明を聞きました。

これが後日NHKの来年の大河ド

ラマに「毛利元就」が決定されたと新聞に報じられ「吉田町を全国に知らせる絶好の機会」として町おこしが一層の活気に満ちていくことでしょう。

広報研修

府中町シルバー

人材センターを訪ねて

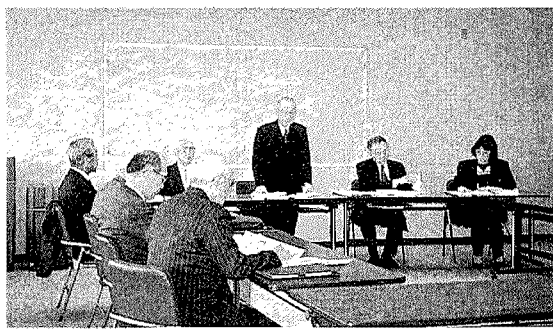
二月九日、府中町のシルバー人材センターを訪ねました。

参加者は山佐理事長、下平次長と広報委員のメンバー。九時半に交流館を出発、陸路を府中町まで。

お願いした時刻は午後一時。早目にみんなで昼食をとり、そのあと、神武天皇が東征の折に立ち寄ったという神社に参拝しました。

矢賀浦の八幡神社と同じくらいの急な石段を上ると、奥に本殿がありました。皆で参拝したあと、庭の植え込みを眺めたり、西方に広がる町並みを望見しました。

一時すこし前、事務所に着きました。理事長はじめ事務局の方が玄関で待っていてくださり、そこから研修会場の町役場の会議室まで案内してくださいました。



吉田町シルバーセンター事務局の皆様、貴重な時間をさいて戴き有意義な研修が行われたことを心からお礼申し上げます。

(就業開拓委員長 下野一彦)

挨拶、お互いの紹介が終わったところで、事務局長さんが府中町シルバー人材センターの概要を説明してくださいました。

五十年七月、高齢者事業団設立。六二年はじめに法人化、十二月、シルバー人材センターとなります。当時は事業実績をあげることと会員拡大に力を入れ、広報活動は全くしていなかったと言っていた状態。いま、事業実績(一人あたりの契約高)は県内第一にまでなっています。

現在、「シルバーだより」と「事務局だより」を出しています。「シルバーだより」は以前は事務局長が担当していました。

いまは広報部を設け、昨年度から三役、広報部会長と一緒にしようとしています。「シルバーだより」は部会でやるのではなく、事務局に頼る面が多い。また、会員の拡大は就業拡大の中という考えから、それまで年二回発行であったのを年一回としました。会員相互のコミュニケーションをとるうえ

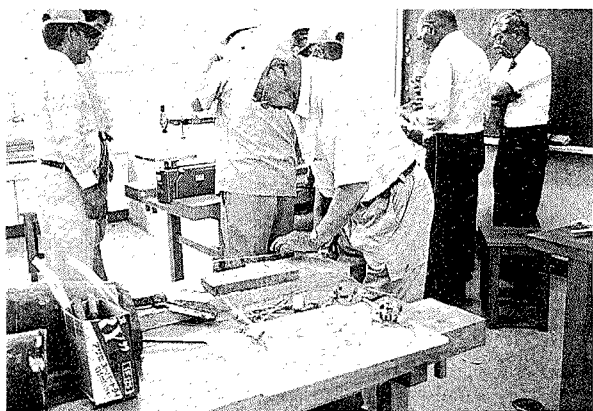
では「事務局だより」を月一、事務局で作って出しています。

会員相互の親睦、互助も重視しており、入会金は一、〇〇〇円ですが、シルバーから年間六十万円を補助しています。親睦旅行は日帰り、一泊二日、二泊三日の三種類で、参加者から実費徴集の他、シルバーから補助金を出しています。

また、最近、女性会員の増加が目立っています。それまでは除草など

工芸教室(竹細工・木工など) スタート

「江田島の特産品づくり」を目標に、昨年の町文化祭参加をきっかけに会員の手芸、竹細工などの作品づくりが盛んになっています。



の軽作業が主でしたが、介護・家事サービスの分野に進出したことで女性の仕事が増えたからです。介護については、関係する機関や団体と連絡を密にとり進めています。介護班員は現在四十名、女性会員の新加入があった時、介助の仕事必ず話し、してもよいという人を育ててこまて来ました。時給は七〇〇円、それ以外は一回いくらと交渉で決めています。(委員長 下谷源蔵)

今年は秋月小学校のご厚意により、図工室を開放していただくことになりましたので、年間を通して定期的に工芸教室を開設することになりました。

竹を素材とした「かに」、「かぶとむし」、「くわがた」などがつくられています。会員の皆さんも手づくり作品に取り組んでみてはいかがでしょうか。

多数の参加をお待ちしています。

※き

毎週月曜日

午後一時～四時三十分

※ところ

秋月小学校三階図工室

工具などは小学校図工室のものを利用させていただくことになっていますが、一度参加され、必要なものは各自で揃えてください。

折にふれて思ふこと

わが町

シルバー人材センター

宮原 山 本 康 秀

私はシルバー会員になって四年目になります。作業は一人暮らし老人へ毎週一回ヤクルトを届けて安否を確認すると共に簡単なお話しをして回っています。私の地区でも高齢化が急速に進み小学生の数の三倍位い七十五才の高齢者がおられます。

これからは皆が助け合って老後を送るには個人の生活を守ることのみにとらわれず、広い気持で如何にあるべきかを考えて暮らすことが必要だと思います。そのためにシルバー人材センター組織が普及発展し、老後の生きがいと社会参加と自立共働の精神でお互いのふれあいが老後を明るく過ごす道と思います。

動ける人は進んで参加し共に高齢化社会を支えたいものです。我が町江田島町も残念ながら過疎地に指定されましたが、名所として昔の旧海軍兵学校の施設があり、年間十万人位の観光客が江田島へ来られ、そのガイドをシルバー会員が行い大変好評を得ております。又ふるさと交流館にシルバーセンターの活動拠点

を置き兵学校遺品の展示室や無料休憩室や名物の田舎うどんもあり大変喜ばれています。草刈作業其の他の就業内容も低料金で誠意のこもった仕事に町民から好評を得ています。今後は家事援助サービスを実現すべく努力されたいと思います。

偶 感

秋月 濱 坂 房 枝

私は、五月から地区在住者で、八十才以上の独居老人（秋月には四十名）に六人の人達とヤクルトを配布することになりましたので、シルバー人材センターに登録いたしました。配布の主旨は、あくまでも老人福祉の名において話し相手になり、近況を聞き、本人に手渡すのが基本とされています。

まだ一か月ですが、訪問して感じたことは、話の尽きない人、また、反対に話したくなくて無愛想な人、極端に恐縮される人、喜ばれる人、様々な人間の顔と性格があり、自身に置き替えてみて、誰にでも好かれる人になるよう心掛けなければと心に銘じているこの頃です。

現在、シルバー人材センターに登録されている人達は、大部分、戦中、

戦後とかなりご苦労をされた年齢の方々だと思えます。戦後五十年、飽食の時代といわれている現在、これからはお互いに無理をせず、健康には充分気をつけて、高齢者能力活用事業には、それぞれの経験を生かして活動し、いつまでも元気で、シルバー色に輝く、青春ならぬ老春を一日も永く過ごせますよう頑張りたいものです。

五月二十八日の総会で、江田島町だけでなく、広島県シルバー人材センター連合に加入されるようなお話でしたが、これからの高齢社会に対するセンターの、さらなる発展を心からお祈りいたします。

どうぞよろしく

秋月 小 松 明 美

私は二十八年間海上生活をしました。家が家庭の事情で退職しました。しばらくして西条の建設会社に就職し、会社のトラックの運転手として働いて居ました。ひまの時には大工の手伝い、倉庫の片付けをしながら、休日は秋月へ帰ってはみかん畑の草刈をし、又、時にはみかんの消毒、秋には取入れ、又、西条の会社へ行くという同じ様な生活をくりかえしていました。シルバーの会員さんに「仕事はないか」とききましたら、江田島町シルバー人材センターへ入ってとは勧められて入会させていたいただき、一般作業を会員さんと一緒にい

ろいろと頑張って働いています。これが私の第二の人生と思っています。まだまだわからない事ばかりと思いますが、これから多くの先輩方と頑張りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

手 紙

匿名 希 望

先日郵便局に行ったら「ポケット版手紙文例集」があり、いただいて帰った。

電話が普及し、今は携帯電話が流行している時代、手紙を書くことが殆ど無くなった。しかし、手紙や文章を書き、意志伝達の手段とすることは大事なことを思う。何故ならば迂闊な発言をして前言取り消しとか、陳謝しますとか言っても相手に与えた心の傷は完全に拭いきれない。文章ならば何度も読み直し、訂正して、相手に渡すことができるし、たとえ、相手が子どもであっても、個性を尊重したものが書ける。これが人の和につながるのではなからうか。何を言いたいのか、何を伝えたいのか、要点をつかんで、要領よく、わかりやすく書くことが大事だが、率直に言ってみる。戦国時代に、ある武士が戦場から妻に送った手紙「火の用心、おせん泣かすな、馬肥やせ」。このような簡潔な手紙が書けるようになりたいと思っているが、私には出来ない。

学校の樹木の殺虫、消毒



五月下旬、町内の小、中、保育所の樹木の防除作業と聞き、九時過ぎ、最初の学校である小用小学校をたずねました。

タンクとエンジンを積んだ軽トラはすでに来ており、水道からタンクに水を取り始めたところでした。ところが、水道から水をとるホースが破れており、校長先生が別のホースをとり出す一幕が作業前にありました。

「今日はここから始めて切半、大須津久茂、宮ノ原の順にまわります。二日でし終える予定です」。

農薬はスミチオン。カップに防霉マスク、ゴム手袋の完全装備で作業開始。校庭の南側、体育館の南と薬を散布します。ホースは二本、二人で手分けしての作業です。体育館の南の家の窓が開いていました。

「すみません。薬を散布しますので、窓を閉めてもらえませんか」窓の閉まったところで散布開始。

支える仲間

「近所の方には前もって知らせてもらっているのですが…」
そこが終わって、校舎の東側に移ろうとした時、トラックの下が濡れているのに気づきました。ホースのとりつけ口から薬がもれています。モンキーで固く締めつけ、作業再開。「散布は年三回、春、夏、秋とします。夏は暑くて大変です」
「シルバーは何でもやるので、いい勉強になります。」

フィルターの取りはずしが大変

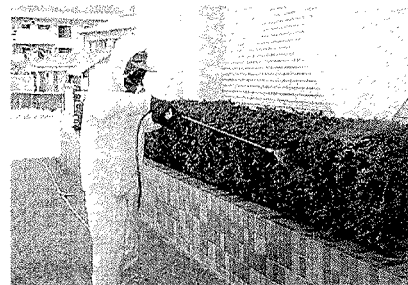
誠心園のクーラーの掃除の仕事があるというのでたずねました。

作業は各部屋と廊下のクーラーのフィルターの掃除。私がたずねた時は園の北側の部屋での作業。天井にとりつけられたフィルターを脚立の上から取り外す作業の最中。「いろいろの型があり、フィルターが簡単に外れるのと、そうでないのがあって……。上をむいてやる作業なので、首がいたくなります。」

フィルターはなかなか外れません。下でフィルター外しを見ていた方が「大体、フィルターは水を流して洗うのですが、さすがにここのフィ

石下校長先生は「ちょうど

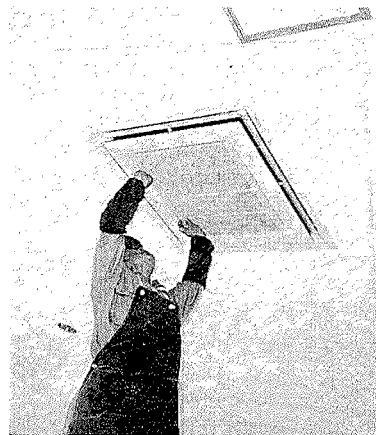
虫がわいてきたところなので、助かります」と話してくれました。



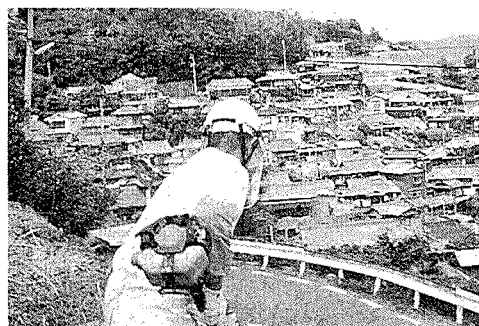
ルターはそんなに汚れておらず、雑巾で拭くだけできれいになります。」と話してくれました。

やっとフィルターが外れ、下にいた方がそれを取って拭き、また上の人に渡します。「今日一日で終わらせる予定です。拭くのはタテ、ヨコとフィルターの網目にそって表と裏の両面をやります。」

クーラーは大きい部屋では二箇所から三箇所、天井と壁の下の方についています。一日で全部やるのは大変だなあと思いつつ、「気をつけてください」と辞去しました。



草刈り機の刃がナイロン紐



五月二十一日、秋月の西平さん宅から依頼された草刈り現場を訪ねました。場所は、停留所のすぐ上、高い石垣の上の宅地と畑跡でした。

道路上の石垣の草刈りに一人。「草刈り機は刃を取り外し、ナイロン紐を使っています。石にあたって刃こぼれを防ぐためです。でも、これでやると草が散って……。道路に散った草はあとで集めます。」確かに草刈り機の刃は直経二ミリくらいのナイロン紐。作業を見ていると、確かに草は飛びますが、きれいに刈れています。

母屋の上の畑跡には三人。この草刈り機もナイロン紐。石が多いのでこれにしたとのこと。「朝九時からかかっています。母屋の庭の植木の間をやってここに来ています。ここは三人でやっていますが、一日では無理でしょうね」仕事の手を休めていろいろ話してくださいました。「暑くなってきたので、これからの

草刈りは大変でしよう。お氣をつけになって」と挨拶して去りました。

それにしても、働く人の知恵って本当に素晴らしいと思います。



塀ぎわにネット張る



役場の庭の草刈り。私がつねたのは十一時過ぎでした。

庁舎の東の自転車置場のそばの柵にグリーン網の防護ネットが張ってあり、その内側で草刈り。「以前は作業中に小石が飛んで、車や窓ガラスにあたり、よく苦情が来ました。それで、このネットを買ってもらったのですが、これだと石が飛ばず、苦情も来なくて助かっています。」

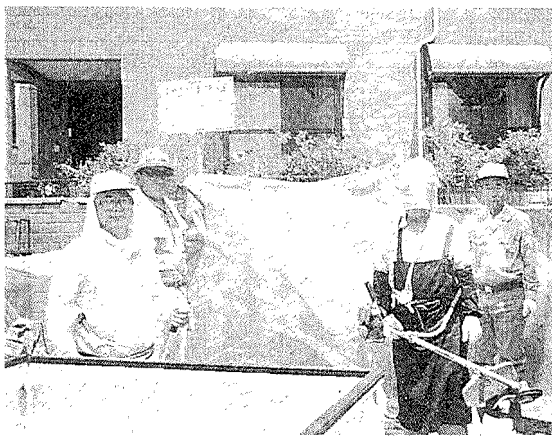
男性五人、女性二人で、男性は草刈り機で塀ぎわ、植え込みの草刈り。草刈り機の刃はここでもビニール紐。女性の中の一人は、「私は中国化菜に三十一年勤め、退職してシルバ－

われら町を

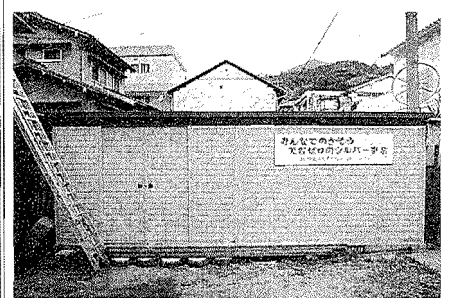
に入りました。草刈りははじめてです。事務所には、仕事がありさえすればさせてくれと言っています。」

ご婦人二人は庁舎の北側の除草。「男の人が、日かげで作業してくれといわれとても助かっています。戦争中は軍隊に納める草刈りをさせられました。シルバ－での草刈りはそれ以来のことです」「ここはムカデが出ないので安心です。矢之浦の水源地はムカデやマムシが出てこわいです」話す間も除草の手は休みません。

「気をつけてくださいね」と言って現場を去りました。



機材置場紹介



中郷コミュニティ・ホームとなりの岩本さん宅の前の広場。その北側に燃料やペンキなどを保管するプレハブの倉庫、残りのスペースは駐車場。草刈機などの機材は母屋の一部に。

この場所、岩本さんのご厚意で平成五年の四月から使わせてもらっています。

それにしても、シルバ－独自の作業所が欲しいものですね。

保健婦さんからのアドバイス

高齢者の健康管理シリーズⅢ

高血圧予防のための食生活を

(2) 肥満しないよう、特に過食を避けること。

一般的に肥満は高血圧につながり、体重を減らすだけで血圧も下がるといわれています。また、過食は肥満だけでなく、食塩の摂取量や血中コレステロール、中性脂肪の増加にもつながり、高血圧、動脈硬化を起しやすくなります。

(3) 動脈硬化の進行を予防するような食事とすること。

脂肪の総摂取量は、摂取エネルギーの20～25%となるよう配慮しましょう。

また、動物、植物、魚類からの脂肪の摂取割合は4…5…1が望ましいとされています。

高血圧は、何らかの疾患が原因となつて起こる二次性の高血圧と、原因が不明で、いくつかの因子が複雑にからみあつて起こる本態性高血圧に分けられますが、その大部分は本態性高血圧で、主な成因としては、食塩の過剰摂取をはじめ、肥満、精神的ストレス、過度の労働あるいは身体的活動の不足などがあげられます。中でも、食生活の影響は大きく、バランスのとれた食生活を基本に、特に次の三点への配慮が不可欠といえます。

(1) 食塩の過剰摂取を避けること。

高血圧は食塩の摂取を減らすだけでかなりの効果が期待でき、一日10g以下とされる適正な食塩摂取は重要なポイントです。

7月は安全就業強化月間

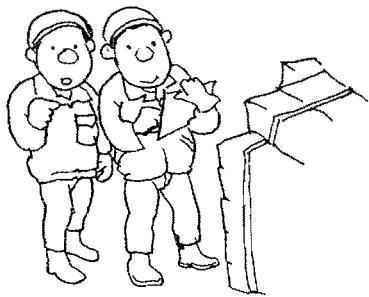
全国シルバー人材センター協会では、毎年七月を「シルバー人材センター安全就業強化月間」として、全国一斉に安全意識の高揚を図るため、啓発活動を進めています。

シルバー人材センター事業は、高齢者の新しい就職システムとして「生きがいと社会参加」をモットーに、全国それぞれのセンターで事業活動を実施していますが、全てに優先して取り組んで行かなければならない課題は「安全就業対策」です。

当センターでは「就業の安全確保」と「事故防止」に特に留意して、会員の意識高揚を呼びかけています。

シルバー会員マニュアルの「安全心得」をもう一度確認して、安全就業に努めましょう。

●全国統一スローガン
『広げよう 安全意識の徹底を』



事務局だより

講習会・適性検査に参加しましょう

シルバーエイジの交通安全教室

運転適性検査

近年、高齢者の交通事故が増加の傾向にあります。

特に、高齢者運転の交通事故が多く、その原因の一つは加齢に伴う身体機能の衰えが主なものとなっています。自分自身の身体機能がどのような状態にあるかを自覚し、それに応じた運転をすることが交通事故防止の秘訣です。

センターでは、各関係機関の協力をいただいて、次の日程で運転適性検査を中心とした交通安全教室を開催します。

当日は、運転適性検査の結果をもとに、その場で、安全な運転の方法について指導・助言していただけます。

検査の結果により免許を取り消されたり、停止されたりすることは全くありませんので、運転免許所有者特に自動車運転業務に就いている皆さんはぜひ受講してください。

▲とき▼ 七月十一日(木)

午前一〇時より

▲ところ▼ 鷺部公民館

『高齢者の交通安全五則』

一、横断は、安全な場所を選び、ななめ横断はやめましょう

＜応急処置講習会＞

作業中の災害時に適切な応急処置を施すことができれば、災害を最少限度にとどめることができます。

センターでは、昨年に続き応急処置講習会を次のとおり開催しますので多数参加してください。

▶とき 7月24日(水)
午後1時30分～

▶ところ 江田島町文化センター 4階大ホール

▶講師 江能広域消防署職員

後編 記

長雨が続きます。それも激しい雨、仕事もののびのびとなり、これからが大変でしょうね。

ところで、皆さんが働いておられる姿を紹介する欄

の見出しが「われらともにはたらく仲間」から「われら町を支える仲間」に変わったこと(第六号から)、お気づきでしょうか。その意味は、「会員同士、一緒に働くことによつて仲間をふやし、自分の生き甲斐を確かめることだけでなく、私たちは、仕事を通して町民の生活が楽しくなる町づくりを進めている。」私たちこそ実は就労を通して町づくりをしているのだという気持ちをもんなが持ってほしいと考えたことです。

また、このところ、小学校の子どもと私たち年輩者の交流が行われています。秋月小学校を会場に行われる工芸教室、直接シルバーとは関係ありませんが、小学生に自分の戦争体験や昔の江田島の様子を語るとりくみ。こういう活動はすばらしいことだと思えます。私たちの子どもたちの江田島の様子や子どもたちの生活遊びを語り、子どもたちに伝えていくことは、私たち年輩者と子どもたちの交流を深めるとともに、人の生き方の大切なことを子どもたちに教えることにつながります。

町を支える活動、もっと強めたいものです。

(下谷記)